

平成29年度第1回四條畷市総合戦略協議会会議録

日 時	平成29年7月4日（火）13:00～
場 所	市役所東別館 2階 201会議室
出席者	石関 委員(会長)、高見委員(副会長)、開原委員、河野委員、清川委員、小西委員、中川委員、中野委員、中村委員
欠席者	
事務局	鷲見特別参与、開理事、坂田政策企画部長、中西企画調整課長代理、伊藤企画調整課事務職員
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>    次第1 国の地方創生に基づく本市の状況について（振返り）</p> <p>    次第2 地方創生加速化交付金の進捗管理について</p> <p>    次第3 総合戦略の進捗管理について</p> <p>    次第4 総合戦略の改訂について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>
配布資料	<p>① 次第</p> <p>② 座席表</p> <p>③ 委員名簿</p> <p>④ 資料1 国の地方創生に基づく本市の状況について</p> <p>⑤ 資料2 地方創生加速化交付金の進捗管理</p> <p>⑥ 資料3 総合戦略の進捗管理</p> <p>⑦ 資料4 四條畷市総合戦略の改訂方針</p> <p>⑧ 資料5 総合戦略改訂スケジュール</p> <p>⑨ 参考資料 四條畷発！「四方よしモデル」パンフレット</p> <p>⑩ 参考資料 四條畷市市広報誌5月号</p>

(文中敬称略)

事務局	<p><b>1 開 会</b></p> <p>それでは、定刻となりました。皆様方には、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の出席委員は9人、欠席委員は0人です。四條畷市総合戦略協議会規則第3条第2項の規定に基づき、委員の過半数にご出席をいただいておりますので、会議が成立することをご報告いたします。</p>
石関会長	<p>ただいまから平成29年度第1回四條畷市総合戦略協議会を開会します。</p> <p>事務局、本日の資料の確認をお願いします。</p>
事務局	<p>本日の資料については、事前に送付させていただいているものはありません。</p> <p>机上に配布させていただいているものとして、次第、座席表、委員名簿、資料1 国の地方創生に基づく本市の状況について、資料2 地方創生加速化交付金の進捗管理、資料3 総合戦略の進捗管理、資料4 総合戦略の改訂方針、資料5 総合戦略改訂スケジュール、参考資料1 四條畷発!「四方よしモデル」パンフレット、参考資料2 広報誌5月号です。</p> <p>資料が揃っていない方、いらっしゃいますか。</p> <p>次に、協議会の開催にあたり、市長の東からご挨拶申し上げます。</p>
市長	<p>皆様、こんにちは。市長の東です。本日は公私何かとお忙しいなか、ご参加いただき誠にありがとうございます。</p> <p>また、平素より、皆様方には総合戦略のみならず、市政様々な分野におきましてもご協力、ご支援賜っておりますことをこの場をお借りして厚くお礼申し上げたいと思います。</p> <p>総合戦略を策定し、本市もそれに基づいて取り組んでいるところではありますが、総合戦略にも掲げている人口ビジョンの2020年段階で本市がめざす人口と現時点での人口では、すでに1,400人ほど少なくなってきました。長く57,000人のラインだったのが、55,000人台に突入してきている状況にあります。個人の住民税に大きく頼っている四條畷市として</p>

	<p>は、この状況をしっかり打破していきたいと考えております。</p> <p>そのうえで、所信表明でも述べさせていただきましたが、現役世代の皆様が住み続けたい、移り住みたいほど魅力的なまちづくりをめざしていくために、本市といたしましては、子育て支援に係るプロジェクトチームを若年層職員主体で立ち上げたり、広報面も強化していくため、本市始まって以来の一番若いメンバーによる検討会でアイデアを出し合ったり、あるいは、産業振興ビジョンに関しても、新しい分野ごとに内容をより精査して取り組んでいる状況でございます。</p> <p>こうしたなか、平成30年9月を目標に総合戦略の改訂をめざしており、それに向けて、6月上旬に、こちらの鷲見さんを総合戦略に関する特別参与ということで任命しました。</p> <p>私から簡単に紹介させていただきますと、市長就任当時から行政の中にも経営がわかる方に関わっていただきたいとの思いを強く持っておりましたので、色んな企業を経営され、それだけではなく、地方創生で地方自治体との連携の実績があり、さらに生粋の四條畷市民でもあるということで、就任いただいております。主には子育て支援であったり、産業振興に係るご支援をいただいているところです。</p> <p>また、より四條畷市が発展的に、希望をもってどの世代の人々も暮らしていけるようなまちにしていくために、協議会で議論いただきながら、精一杯、本市としても取り組みたく、本日は様々ご意見、ご審議いただければと思っております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>事務局 公務の都合上、市長はこの場で退席いたします。 それでは、以降の進行を会長にお願いしたいと思っております。 会長、よろしく願いいたします。</p> <p>石関会長 それでは、次第に入る前に、四條畷市総合戦略協議会条例第4条第2項及び第3項に規定する金融機関、産業経済団体の関係者として、りそな銀行四條畷支店長と四條畷青年会議所理事長が交代されたことに伴い、りそな銀行四條畷支店長におかれましては、深谷(ふかや)様にかわり、開原(かいはら)様、四條畷青年会議所理事長におかれましては、岡本様にかわり中村様が新たに委員として委嘱されました。</p> <p>自己紹介をお願いしてもよろしいですか。開原委員からお願い</p>
--	--

	<p>します。</p>
開原委員	<p>&lt;自己紹介&gt;</p>
中村委員	<p>&lt;自己紹介&gt;</p>
会長	<p>開原委員、中村委員、ありがとうございました。  また、新任の委員がいらっしゃるので、簡単で構いませんので、委員の皆さんに自己紹介をお願いしたいと思います。  それでは、私からさせていただきます。</p>
各委員	<p>&lt;自己紹介&gt;</p>
	<p><b>2 議 事</b></p>
会長	<p>自己紹介ありがとうございました。  それでは、次第に沿って会議を進めます。  まず、次第1 国の地方創生に基づく本市の状況についてです。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>国の地方創生に基づく本市の状況について、説明いたします。  資料1 国の地方創生に基づく本市の状況についてをご覧ください。  国は、平成26年12月に、国をあげて地方創生と人口減少克服に取り組むことを主眼として、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定しました。これに合わせ、市町村も国の地方創生の主旨を鑑みた「地方版人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定が求められたことから、本市も取組みを進めました。  地方創生を進めるうえで、産学金等をはじめとした外部の有識者から意見を聞く機会の設定が重要とされていることから、平成27年6月に四條畷市総合戦略協議会を設置し、以降、平成27年度は戦略策定にあたって3回、平成28年度は戦略の進捗管理にあたって2回議論いただき、ご意見を頂戴しました。  また、国からの財政的な支援として、平成27年3月には、地方創生先行型交付金、平成27年9月には、10月末までに人口ビジョン及び総合戦略を策定した地方公共団体が活用できる地方創生先行型上乗せ交付金タイプⅡを活用して、本市において</p>

<p>会長</p>	<p>も、地方創生の主旨に沿う様々な事業を実施しました。</p> <p>平成28年度には、地方創生のさらなる深化を趣旨に、地方創生加速化交付金を活用して、学校給食センター敷地内に設置した砂栽培設備を中心に、市内農産物を活用した事業を実施いたしました。これについては、次第2でより詳細に説明させていただきます。</p> <p>他にも、平成28年度には、地方創生拠点整備交付金という、これまではソフト事業に特化した交付金が多かったなか、ハード事業、建設事業をメインとした交付金が創設され、本市でも検討いたしました。</p> <p>第1回募集では、飯盛山へのハイキング道となっている四條畷神社のトイレ改修を申請しましたが、不採択となりました。</p> <p>第2回募集では、市長から積極的に進めるとした横断的な取組みをとして、託児施設が併設され、会社から離れたところでもオフィスを構えるテレワークオフィスの設置や、妊娠、出産、子育てに関する継続した支援での活用を検討しましたが、託児施設の設置や法令上の課題等があり、断念に至りました。</p> <p>なお、総合戦略に記載した事業や交付金については、PDCAサイクルに則って、この総合戦略協議会で効果検証を行うこととしております。</p> <p>また、繰り返しの説明となりますが、市長からの挨拶にもあったとおり、本市の直近の総人口は、人口ビジョンで推計した2020年の総人口と比べ、約1,400人少ない約55,900人となっており、さらに少子高齢化、人口減少が進展すると、非常に厳しい状況に陥りかねないと認識しております。</p> <p>今後、総合戦略の改訂を通じて、誰もが本市に住み続けたい、あるいは移り住みたいと思えるような施策を実行できるよう、委員皆様からもご意見を賜りたいと思っております。説明は以上でございます。</p> <p>ただいま、事務局から説明がありましたが、ご質問やご意見はございませんか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>意見がないようなので、次第2 地方創生加速化交付金の進捗管理について、事務局から説明をお願いします。</p>
-----------	--

事務局	<p>資料2 地方創生加速化交付金の進捗管理についてをご覧ください。</p> <p>地方創生加速化交付金は、国が地方創生をさらに進めるための財源として創設され、先駆性の高い取組みのうち、特に地域のしごと創生に重点を置きつつ、一億総活躍社会の実現に向けた国の緊急対策にも資する分野の事業を対象としています。</p> <p>この交付金は、外部有識者を交じえてKPIの効果検証を行うことが要件として課されており、KPIとは、重要業績評価指標といい、事業や業務の目標達成度合いを計測する指標のことです。本日の協議会では各界を代表する皆様に意見をいただきたいと考えております。</p> <p>事業の概要をご説明しますと、学校給食センターの敷地内に砂栽培ハウスを設置し、砂栽培事業を核とした地域、民間、行政と連携した都市型農業の魅力創出と生活困窮者の自立支援を端緒とした横断的な事業を展開しました。</p> <p>高床式砂栽培農法は、作業負担が少なく、安定的な作物供給が可能であることから、本事業は、砂栽培野菜の生産と給食食材としての納品を民間事業者へ委託し、就労に困難を抱える若者や障がい者、高齢者の雇用の場を確保するとともに、食に関する各種イベント等の開催により、新たな営農方法の普及促進と子どもたちや子育て世代への食育の推進に寄与することを趣旨としています。</p> <p>また、砂栽培野菜をはじめとした市内農産物とその加工品に付加価値を付け、ブランド化することで四條畷産野菜の販路拡大をめざしています。</p> <p>加えて、子育てサークルと連携し、子ども食堂を立ち上げ、栽培した野菜を活用し、朝食を欠食する子どもたちへ朝ごはんの提供を1月から開始しました。</p> <p>その他、食育関連のクッキング講座の実施やレシピ配布を行いました。</p> <p>ブランド化にあたっては、JAや農業者で構成する田原農研クラブの方々にもご協力いただきながら、砂栽培だけでなく、市内の農業事業者の方の農産物についてもブランド化するため、パッケージングをいたしました。</p> <p>3月には防災講演会のあと、一昨年に整備した災害時に強いガスコージェネレーションを体感いただくため、給食センターの見学会と、砂栽培設備で収穫体験を実施しました。</p>
-----	---

	<p>さらに、交野支援学校四條畷校では、学校敷地内の一角で簡易型の砂栽培設備を設置し、授業の一環で種まき、収穫体験を、また、収穫された野菜については、学校給食で提供させていただきました。</p> <p>配付しています四方よしモデルのパンフレットや5月号広報誌の特集記事もご参考にしていただければと思います。</p> <p>続いて、表の実績値をご確認ください。</p> <p>地場産野菜の学校給食納入量については、目標値11,000kgを大幅に上回る28,983kgとなりました。学校給食センター敷地内のユニバーサル農園ハウスの建設が平成29年3月までずれこんだことから、平成28年度中の農園ハウスからの納入はありませんでしたが、従来から学校給食に地場産野菜を納入する取組みを続けており、昨年度は関係団体との協議も整ったことから、目標値を大幅に上回る結果となりました。</p> <p>農業、食育関連イベント等への参加者数については、農業まつりが雨天のため、総数としては参加者数の大幅な減少となりましたが、交付金を活用したイベントの開催や食育関連で地産地消の推進を積極的にアピールし、そのほかのイベントについては、参加者数が増加しているものもありました。</p> <p>本事業を通じて増加した従業者数については、ユニバーサル農園ハウスの建設がずれこんだことと、繁忙期を中心とした作業がメインであるため、砂栽培を実施している事業者全体の雇用者については、3人の新たな雇用がありました。</p> <p>これらの結果を踏まえ、本事業は地方創生に相当効果があったということができると考えます。今後も、地方創生の趣旨である、交付金などの国の財源に頼らず、自立的な運営をめざし、引き続き、ユニバーサル農園ハウスから学校給食への納入などを行ってまいります。</p>
会長	<p>ただいま、事務局から説明がありましたが、ご質問やご意見ございませんか。</p>
中野委員	<p>学校給食等に野菜を納入され、継続、改善という形になっています。ニュースなどで、食品ロスの問題がよく取り上げられていますが、砂栽培の野菜を納入する前とその後を検証されたことはありますか。</p>

事務局	<p>学校給食での食品ロスについては、毎日、残飯を集計し、メニューごとに残飯の分析をしています。なるべく子どもたちが残さないようなメニュー開発といった創意工夫により、食品ロスをできるだけ減らす取組みをしています。</p> <p>なお、砂栽培野菜の納入以前からも地場産野菜を用いたメニューを取り入れています。</p>
会長	<p>次に、次第3 総合戦略の進捗管理について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3 総合戦略の進捗管理をご覧ください。</p> <p>時間が限られておりますので、全体の中から、K P I が基準値に比べ実績が比較的良かったもの、悪かったものを中心に引き上げさせていただきます。</p> <p>まず、良かったものとしては、基本目標「子どもたちのすこやかな育ちを応援」のなかで「子どもの健康を支える取組みの充実」として、「子育てぽけっと利用件数」が、目標値を大きく上回る結果となっております。子育てぽけっととは、質の高いおもちゃを親子に貸し出す事業です。従来から実施していた子育て総合支援センターのみならず、公立保育所2園でも平成27年度末から利用開始となったため、大幅に利用件数が増加しました。</p> <p>また、「保育施設の整備促進及び幼児教育施設の環境充実」では、待機児童の発生状況に応じて、各年代の定員数を変更する定員弾力化の実施により、待機児童が減少しました。</p> <p>一方で、基本目標「魅力と活力にあふれるまちづくり」のK P I は、地域経済を支える産業の活性化の部分では、商店の閉店に伴って、商工会会員事業者数が減少しているなど、地方創生の重要な、しごと、産業の創出につながる指標が厳しくなっています。</p> <p>また、コミュニティバスの実績値が悪化しています。コミュニティバスについては、今年度から、地域の公共交通の活性化、再生を趣旨に、市が主体となって、交通事業者等が参画する協議会を設置し、今後の公共交通のあり方を検討する方向です。</p> <p>全体的に総括しますと、子育て環境の充実の部分では、一定市民の方にも充実しつつあると実感いただいているところです。しかし、地域活性化につながる施策に課題が残る結果となっております。</p> <p>総合戦略で掲げる基本目標二つの取組みを充実させてこそ本</p>

	<p>市の地方創生の実現に繋がっていくことから、特に、地域活性化に係る施策については、産業振興ビジョンも改訂を予定していることから、積極的な施策を打ち出してまいりたいと考えております。</p> <p>説明は、以上でございます。</p>
会長	<p>ただいま、事務局から説明がありましたが、何かご質問、ご意見等ありませんか。</p>
小西委員	<p>一点は、机上配布だったので、説明を受けながら項目を追っていくので、一つひとつが読み込めませんでした。</p> <p>わたしは他の北河内6市の地方創生の委員をかねており、全体を見て、人口減少の年齢層、特に最近多いのが就職、結婚の時期に若い生産年齢人口がこの地域から出てしまっているという共通の課題があります。</p> <p>できれば、ぜひ、実際の流出、転出を届けられた方にどういう理由で次の地域に住まわれるのか、子育てのためなのか、仕事のためなのか、いろいろな分析の仕方があると思います。まず、そこを分析したうえで、子育て世帯を呼び込むためにはどのタイミングでどんな施策をするか、検討のうえ、対策いただきたい。</p> <p>分析をすると、まちの人口構成でどこが核になるのか見えてくるのではないかと思っています。これをひとつの提案とさせていただきます。</p>
事務局	<p>北河内地域において、就職、結婚の時期に人口流出する傾向にあるとのことですが、本市人口ビジョン策定時に20代の男性の人口流出が特に多いという分析を行っており、現状の課題であると認識しております。</p> <p>転出時にアンケートを行うご提案につきましては、総合戦略策定時にそういったアンケートを検討していたのですが、策定時期と転入転出が一番多い3、4月頃とが合わなかったため断念したという経緯があります。</p> <p>そういった分析を取り入れることも視野に、庁内全体で今回の戦略改訂にあたって検討してまいります。</p>
小西委員	<p>親元から離れて東京などで就職、進学し、そこから帰ってきて親と同居、近居を勧めるという施策もあります。近居を勧めると、</p>

	<p>四條畷市が一番力を入れられている子育て支援のためになり、子どもの親、30, 40代の活力があり、地域活力にも一番力強い世代に戻ってきてもらいやすくなります。</p> <p>そういった事業の検討もしていただきたい。</p>
事務局	<p>小西委員におかれては、他市事例として、転出の際にアンケートされているということをご存知でしょうか。実際に行われている事例を参考に分析することができればと思っています。</p> <p>ご存知の場合は、事務局に情報提供いただけるとありがたいです。</p>
小西委員	<p>わかりました。</p>
清川委員	<p>転出時にアンケートをされる場合、自由記入だと抵抗感を持つ方もいると思われるので、たとえば、あらかじめ結婚、就職など簡単に選べる項目を設けて丸をつけてもらうよう、転入届の様式変更を検討するのはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>そういったアプローチもひとつの方法と考えます。</p>
清川委員	<p>高齢で亡くなられた方が何人、出生された方が何人、を差し引きのうえで人口減少している、ということは把握されているのでしょうか。</p>
事務局	<p>本市人口ビジョンを策定する際に分析したとおり、20、30代の年齢層が転出傾向にあり、出生数もピーク時には600人を越えていましたが、現在は500人を切りつつあり、明らかな少子高齢化の状況にあります。</p> <p>人口動態とは別に、地域環境に関して、空家が増加傾向にあります。本市は、空家等対策推進計画を策定する途上で、住宅に占める単純な空家の割合が大阪府内市町村でも上位という現状にあります。人口動態はもちろん、空家対策についても考えていかなければいけないと理解しています。</p>
小西委員	<p>窓口で交付申請をする場合などの待ち時間をうまく利用して、専従の案内係のような方に、転出の要因などを聞いていただくような、コミュニケーションをするなかで聞くような方法もあるの</p>

<p>中村委員</p>	<p>ではないでしょうか。</p> <p>まず、四條畷市だけが人口減少となっているわけではなく、全国各地ではじまっているという認識を持たれたほうがいいです。四條畷の発展を考えるのなら、他市にないもの、サービスを考えなければなりません。まして、子育て支援のまち四條畷、というのは素晴らしいと思いますので、ここは推し進めていかなければいけません。四條畷に住めば子育てしやすいまちだ、というのをアピールしなければいけないと考えています。</p> <p>砂栽培も非常に素晴らしい事業だと思いました。これをさらなる拡大の方向に持っていかれてはどうか、という率直な感想を持ちました。使われていない農地を活用できるのであれば、どんどん活用してさらなる雇用を生み出す、高齢者の方々が増えてくるのは間違いない現実ですので、高齢者の方々に生産者になっていただく、雇用して活躍していただく、ということが可能であればめざすべき。そういったことが子育てのまちにも繋がっていくのではないかと考えます。</p>
<p>事務局</p>	<p>砂栽培のご提案に関しましては、地方創生に絡めて事業を実施しているのは本市だけではなく、泉南市においても同様に事業を展開されていると聞き及んでいます。事業のアプローチとしては、本市の場合は、障がいなどをお持ちの方であっても、農法を利用して雇用の場を確保することを趣旨としています。</p> <p>泉南市の場合は、委員がご提案されているとおり、市内の農業従事者等に積極的に普及促進するため、泉南市がモデルとなるハウスを建設し、そこでの見学会を実施されています。ただ、現時点では、ハウスを建設された事業者はなく、泉南市がその要因を設備投資が高額であることと分析されています。実際に本市でも学校給食センターで建設した際は、2,000万円強の費用がかかっています。事業者にとってはそこが負担に繋がっているのではないかと思います。</p> <p>本市では、農法を広めるというより、学校給食センターで働く方を増やす、雇用の場として使う方向をめざしたいと考えます。</p> <p>資料2でも記述しておりますが、今後は、生活困窮者自立支援制度に基づく就労訓練事業の体験型施設として提供してまいります。</p>

中野委員	<p>費用対効果についてお聞きします。ハウスの建設で2,000万円の投資がかかり、生産についてもコストがかかっている。学校給食にも納入されているが、どうなっているのでしょうか。赤字になったりしているのでしょうか。</p>
事務局	<p>野菜の納入について、野菜の買取り価格を納入事業者と学校給食会とであらかじめコスト計算のうえ、協定を締結しています。赤字にはならない形で運営しています。</p>
中野委員	<p>当初の趣旨である、障がいを持っている方に働いていただくぶんには、いいということですね。全市域で導入して、それなりの利益が儲けられる事業体にしていけばよいのではないのでしょうか。</p>
清川委員	<p>一般向けに売られてはいないですよ。</p>
事務局	<p>費用対効果について、条件としては、給食センターの一角を3年間に限り、無償貸与しています。3年後については、一定の使用料をいただくことになるので、今は過渡期にあると言えます。今後、ハウスの費用負担を求めることとなると、さらなる自立的な経営が求められることになると考えています。</p> <p>一般市場で販売されているかどうかは、学校給食センター敷地内で生産されるものを100%センターに納入しています。砂栽培の事業者は、砂栽培について特許をお持ちで、スーパーマーケットなどに納入し、一定評価を得られていると聞き及んでいます。</p> <p>中村委員の子育てしやすいまちに関するご質問につきましては、市長が1月に就任し、本市は近隣他市と比べて財政基盤が脆弱であり、他市と同じ施策を実施しても勝つことができないと考えております。そこで本市のニーズを分析のうえ、他市と横並びでない施策を実施し、それをもとに人口の流入を図ってまいります。特別参加がそれらに関して知見を持っているので、そのアドバイスのもと、事業を進めてまいります。</p>
河野委員	<p>コミュニティバスの件です。田原地域は人口が横ばいであり、ダイヤの見直し等で乗客数が減っていると分析されています。梅田から田原地域に帰宅する場合、JRの最終電車が24時35分</p>

	<p>発で四條畷駅に1時頃に着きます。市営地下鉄の本町駅発だと23時32分発が最終となっています。それとの宣伝も考えていただきたい。</p> <p>奈良交通だと24時6分発の深夜バスが生駒駅から出ています。京阪バスも他地域では深夜便をされているかもしれませんが、せめて30分はコミュニティバスのダイヤを遅くしていただけたら、近鉄バス経由での帰宅客を取り込むことができます。</p> <p>JR利用の場合、定期券の額が安くすむため、通勤客にとっては利便性が高くなります。</p> <p>そういうことを含めて考えていただけると、人の流れが大きく変わる可能性があります。</p> <p>また、以前にもお話したかもしれませんが、奈良交通は学研北生駒駅付近に車庫があり、県をまたいでしまいますが、コミバスが田原台のほうだけではなく、最終、登美ヶ丘のほうまで行ってしまえば全体をうまく使えるのではないのでしょうか。</p> <p>また、土日の登山といった観光客の方が多いので、その方たちや平時の乗降客もわけて考えていただけたらと思います。</p>
事務局	<p>公共交通については、さきほども説明しましたが、これから3年をかけて公共交通全体の見直しを公共交通会議で実施します。専門家の方等のご意見もいただきながら、コミュニティバスだけに限らず、他の交通機関についても議論してまいります。田原地域については、西部地域に比べると公共交通の基盤が薄いところがありますので、それらも総合的に勘案し、地域性にあった形を検討していきます。</p> <p>また、市域内だけで議論をしても広がりがないので、おっしゃ交じえったとおり、たとえば生駒市といった府県を越えた連動も考えていかなければいけないと考えています。広い視点からの検討を行い、3年後には一定の結論を出してまいります。</p>
中村委員	<p>砂栽培について、ハウス建設は非常に費用がかかるということですが、一部の地域では、農地を安い単価で移住者などに貸されて、その方たちに地域に住んでいただく、という取組みをされていると聞いています。</p> <p>四條畷には使われていない農地、活用できる農地はあるのでしょうか。</p> <p>J Aに聞いたところ、そういった農地があると聞いていますの</p>

	<p>で、そちらを活用いただいて、そこで作った商品をそのまま販売するのではなく、付加価値をつける、たとえば漬物を作るなど、四條畷ブランドとして売っていく、生産性を高めるという考えもあるのではないのでしょうか。</p> <p>現在、四條畷の農地の現状はどうなっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>ブランド化に関しては、現在、JA大阪東部の田原女性支部で味噌などの特産物を作っていただいています。パンフレットでお配りした「四方よしモデル」の検討の際には、本市の特産品としてパッケージングをしていただきました。新たな特産物をとということについては、現状ではできていない状態にあります。田原農研クラブ等の生産者の高齢化が進んでおり、後継者がいらっしやらないという話も聞いております。</p> <p>田原地域の遊休農地については、NPO法人が貸農園をされていて、かなりニーズがあり、待機者がいると聞き及んでおります。</p>
中村委員	<p>農地をどんどん活用することで、新たな雇用も生まれてくると思っております。</p>
事務局	<p>現在の総合戦略では、子育て関係と産業振興を軸としており、次期総合戦略についても、この二つの軸は変わらないと考えております。</p> <p>産業振興のなかでは「商業」、「農業」、「工業」として農業施策も位置づけておりますので、特別参与とともに、今のご提案の内容も含めて検討してまいります。</p>
会長	<p>次に、次第4 総合戦略の改訂について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>総合戦略の改訂についてご説明申し上げます。</p> <p>資料4 四條畷市総合戦略の改訂方針をご確認ください。</p> <p>1 改訂の趣旨をご覧ください。</p> <p>本市の総人口は、平成22年をピークに減少傾向に転じ、とりわけ、若年世代が多く流出していることから、今後、少子高齢化が急速に進んでいくことが予測されます。</p> <p>このようななか、平成27年10月に人口減少の抑止と活力湧く地域社会の実現に向け、具体的な施策の積極的かつ計画的な実</p>

行を旨とする、四條畷市総合戦略を策定しました。

しかしながら、現状においては、人口減少が当初の推計を上回り、急速に進んでいることから、誰もが住み続けたい、あるいは移り住みたい、あるいは移り住みたいまちづくりを加速する必要があります。

このことに鑑み、改めて総合戦略に掲げる基本目標を明確化し、併せて、具体的な施策について、本市の独自性を発揮できる教育へとつなぐべく、マーケティング手法を取り入れた戦略的政策立案による見直しを行い、他市との横並び意識に囚われない事業の展開により、人口増と地域の活性化を果たすため、総合戦略を改訂します。

2 これまでの経過については、次第1でご説明申し上げた内容と重複しますので、省略いたします。

次に、3 改訂にあたっての考え方につきましては、本市では、四條畷市人口ビジョンに示すとおり、平成22年をピークに人口が減少傾向に転じ、このまま対策を講じなかった場合、平成62年には総人口が4万3,746人、高齢化率38%に達すると予測されています。

これに対峙するため、人口ビジョンにおいては、子育て支援や地域活性化を軸とした施策の推進により、合計特殊出生率の向上と社会動態の均衡を図り、平成62年の人口の将来展望を51,005人と決めました。

しかしながら、すでに総人口は人口ビジョンで定めた推移以上に減少が進展しています。

このことから、従前の取組みとその検証を踏まえ、次の3つの考え方に基づき、総合戦略を改訂します。

1つが子ども・子育て支援で、どこよりも安心して子どもが育ち、また、子育てができる環境づくりをめざすため、子育て支援プロジェクトチームを設置し、切れ目のない子育て支援を主眼に、妊娠期であるマイナス1歳から18歳までの子どもを対象とする本市独自の包括的な子育て支援を推進します。

次点が、産業振興で、「稼げない自治体に未来はない」という覚悟を持ち、まちの魅力づくりとして、「商」、「工」、「農」の各地域産業分野の活性化を図るべく、従前の産業振興ビジョンの改訂と本市の特性を活かした独自のアクションプランの作成を通じ、今後の具体的な取組みを推進します。

さらに、シティプロモーションでは、本市の特色を活かした観

	<p>光施策を展開し、市内外の皆さんが観光を楽しんでいただけるよう取り組むとともに、シティプロモートを含めた市外から人を呼ぶ込む施策を推進します。</p> <p>4 総合戦略に掲げる基本的視点といたしましては、国が示す先駆性のある事業の立案、基本目標の達成に向けてより効果的なKPIと明確な数値目標の設定、本市の優位性を効果的に伝えるためのシティプロモートの導入、社会情勢の変化や国の動向に対応し得る柔軟性を有する施策等の設定を考えております。</p> <p>5 計画期間としては、平成30年9月に策定いたしますので、そこからおおむね5年先を見据えた計画といたします。なお、社会情勢や市民ニーズに柔軟に対応できるよう、必要に応じて適宜見直しを行います。</p> <p>別紙のスケジュールをご参照ください。</p> <p>子育て支援プロジェクトチームと産業振興ビジョンの改訂状況をふまえることから、今回の改訂は平成30年9月までに行うこととしており、今年度は、1月を目途に原案を策定のうえ、2、3月にかけて意見公募手続による市民からの意見聴取を行います。</p> <p>来年度は、改訂作業にあたって、5月と7月にそれぞれ総合戦略協議会の開催を予定しております。つきましては、内容に関し、ご意見をいただきたく存じますので、ご予約のほどお願い申し上げます。</p>
会長	<p>ただいま、事務局から説明がありましたが、何かご質問、ご意見等ありませんか。</p>
小西委員	<p>平成28年度には地方創生加速化交付金を受けていますが、平成29年度は地方創生推進交付金の申請は行われるのでしょうか。</p>
事務局	<p>推進交付金の申請を行いたいと考えていますが、事業はこれから検討を行います。</p>
中川委員	<p>人口増加を謳っていますが、全国で人口減少しています。北摂地域、和泉市など、増加している地域もありますので、ベンチマークをし、なぜ増加しているのか、たとえばインフラが良くなったのか、ソフトが良くなったのか、など分析したほうがよいと思</p>

<p>会長</p>	<p>います。 北河内7市で比べるのではなく、大阪府内の人口増加している地域を調べていただきたい。</p> <p>次にその他、について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>昨年度からの取組みで、地方創生に資する事業である、「室池いきもの王国」について紹介します。広報誌5月号の7ページをご覧ください。</p> <p>「室池いきもの王国」は、総合戦略の生涯学習、生涯スポーツの推進の欄で「室池といった本市の魅力ある資源を活かしたソフト・ハードにわたる施策の検討」の一環で、大阪電気通信大学の教授である石関会長のチームと市が協働のもと、緑の文化園、室池園地を舞台にフィールドゲーム、トレーディングカード、ゲームアプリ、プロモーションビデオを連動した企画を昨年11月から実施しています。</p> <p>5月に新たにトレーディングカードとクイズを追加した他、ゲームアプリと動画を近日中に追加配信予定です。本日は、石関会長がプロモーションビデオをお持ちくださいましたので、皆さんにご覧いただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>&lt;会長によるプロモーションビデオの披露&gt;</p> <p>今回のプロモーションビデオ作成は第2弾にあたるのですが、トレーディングカードが普及していて遊び方がわからないという声を聞いたので、第1弾のビデオのような室池の紹介ではなく、カードの遊び方がお子さんにもわかるように作りました。</p> <p>新しいゲームアプリについては数日以内に配信予定です。こういった形で続けているところです。</p>
<p>事務局</p>	<p>石関会長、ありがとうございました。</p> <p>続いて、次回の総合戦略協議会については、翌年度の予算編成に際して、地方創生に向けた取組みの協議、調整をしたいと考えておりますので、次回は概ね11月頃の予算編成方針決定時期の開催を予定しております。</p> <p>併せて、事務連絡ですが、本日の会議録につきましては、後日、事務局から送付するので、内容をご確認のうえ、指定の期日までに修正点等がありましたら事務局までご連絡いただきますよう</p>

会長	<p>お願いします。会議録については、市ホームページへの掲載を予定しております。</p> <p>小西委員から指摘があったとおり、議論がより深まると思いますので、なるべく資料については事前に送付するよう、事務局にお願いします。</p> <p>それでは、ただいまを持ちまして、平成29年度第1回四條畷市総合戦略協議会を閉会します。</p>
----	---